

【別添】表5：デンマークにおけるインクルージョンテクノロジーの評価手法

インクルージョンテクノロジーの活用に力を入れ、評価の手続きが明確になっている代表的な自治体やインクルージョンテクノロジーに関連した評価のガイドラインを作成している公的組織の取り組みを示す

No.	自治体名 (もしくは組織名)	URL	担当者	評価方法(戦略)	利用している評価指標	概要 活動内容と評価の方法	その他
1	National Board of Health (Sundhedsstyrelsen)	<a href="https://www.sundhedsstyrelsen.dk/en/English/">https://www.sundhedsstyrelsen.dk/en/English/</a>	sst@sst.dk	「The Danish HTA model (デンマークヘルステクノロジー評価 (HTA) モデル)」	「ポリシークエストion (Policy question)」「HTAクエスion (HTA question)」「エビデンスと分析 (Evidence, analysis)」「統合 (Synthesis)」「HTAレポート (HTA report)」のステップにそって、各ステップの相互関係を鑑みながらHTAを進める。特にエビデンスと分析のステップでは、「テクノロジー」、「組織」、「経済」、「患者」の4項目について、様々な分析方法、研究アプローチ等を使用する。	デンマークHTAモデルは、様々な批判や修正を重ねているが、その間、デンマーク国立衛生局 (Sundhedsstyrelsen) は、この構造を維持し続け、HTAにおいて意思決定する際の教育的モデルとして、推奨している。ただし、現在オンラインで取得できるものは、2008年に発表されたものであり、現在、最新版の有無を問合せ中である。 *参照：ヘルステクノロジー評価ハンドブック (Health Technology Assessment Handbook : HTA Handbook) <a href="https://www.sst.dk/~media/ECAAC5AA1D6943BEAC96907E03023E22.ashx">https://www.sst.dk/~media/ECAAC5AA1D6943BEAC96907E03023E22.ashx</a>	・ Health Technology Assessment Handbook <a href="https://www.sundhedsstyrelsen.dk/en/English/publications/2008/Health-Technology-Assessment-Handbook">https://www.sundhedsstyrelsen.dk/en/English/publications/2008/Health-Technology-Assessment-Handbook</a>
2	KL: KOMBIT videncentret	KL: KOMBIT - videncentret <a href="https://videncenter.kl.dk/">https://videncenter.kl.dk/</a>  KOMBIT <a href="https://kombit.dk/indhold/om-kombit">https://kombit.dk/indhold/om-kombit</a>	Mie Bjerre (Specialkonsulent)  E: MIBJ@kl.dk T: +45 33 70 30 15	「Fælles Sprog III (FSIII : 共通原語III)」を基盤とした「Effektværktøj (インパクトツール)」を利用したテクノロジーに対する投資効果を評価	・従来の事例(テクノロジー)評価は楽観的であると見え、対象母集団と効果について「悲観的」「確率的(発生頻度の高いもの)」「楽観的」の3段階の推定を行い評価する。 ・評価対象は7項目: 「ターゲット層(特徴と範囲)」「市民・経済への影響」「必要な行動変容」「成果物やワークフローのフォローアップ」「経済」「損失と失敗の理解」「リスク」  ・評価ツール: <a href="https://videncenter.kl.dk/media/25811/effektvaerktoej_udfyld-final.pdf">https://videncenter.kl.dk/media/25811/effektvaerktoej_udfyld-final.pdf</a> ・評価のためのガイド: <a href="https://videncenter.kl.dk/media/25810/effektvaerktoej_guide_a4-hoej_100220-v2.pdf">https://videncenter.kl.dk/media/25810/effektvaerktoej_guide_a4-hoej_100220-v2.pdf</a>	KL:KOMBITでは、ウェルフェアテクノロジーの調達と投資において、市民と経済的影響を明確かつ詳細にするためのインパクトツールを作成した。評価の基盤となる「Fælles Sprog III (FSIII : 共通原語III)」は、健康・高齢者分野における自治体の業務遂行を文書化するための、自治体共通の方法・基準である。このツールは、ウェルフェアテクノロジーへの、オペレーションを重視した効果的な投資のため、自治体内部だけでなく、プロバイダーとの対話のために利用する。テスト、リポート、調整という循環プロセスを意識したものとなっている。 7つ評価項目に対し、関連する質問事項が設定されている。7項目は独立したのではなく、相互に関連性を持つ。  ・関連サイト : Effektværktøj til dialog om anskaffelse af velfærdsteknologi <a href="https://videncenter.kl.dk/viden-og-vaerktoej/teknologilandskabet-overblik-og-redskaber/velfaerdesteknologi/materialer-og-vaerktoej/effektvaerktoej-til-dialog-om-anskaffelse-af-velfaerdesteknologi/">https://videncenter.kl.dk/viden-og-vaerktoej/teknologilandskabet-overblik-og-redskaber/velfaerdesteknologi/materialer-og-vaerktoej/effektvaerktoej-til-dialog-om-anskaffelse-af-velfaerdesteknologi/</a>	・組織について KL: KOMBIT - videncentret (ナレッジセンター) は、デンマークの98地方自治体による利益団体KLと、KLが100%出資した企業かつ自治体のITコミュニティであるKOMBITにより設立されたナレッジセンターである。KOMBITは、自治体やITサブライヤーと協力し、複数自治体による複雑な共同調達を行っている。IT市場の透明性を高め、自治体が最適なITソリューションを創造・運営できるようにソリューション提供を行っている。 <a href="https://videncenter.kl.dk/om-videncentret/">https://videncenter.kl.dk/om-videncentret/</a> KLについて : <a href="https://www.kl.dk/om-kl/praesentation-af-kl/">https://www.kl.dk/om-kl/praesentation-af-kl/</a>  ・ Det velfærdsteknologiske landkort (ウェルフェアテクノロジー・マップ) KL: KOMBITは、福祉技術に関する経験を自治体同士で共有する場として「ウェルフェアテクノロジー・マップ」を提供している。各自治体がどのようなウェルフェア・テクノロジーを導入したのか、その事例の概要と問合せ先を確認することができる。 <a href="https://videncenter.kl.dk/viden-og-vaerktoej/teknologilandskabet-overblik-og-redskaber/det-velfaerdesteknologiske-landkort/#/">https://videncenter.kl.dk/viden-og-vaerktoej/teknologilandskabet-overblik-og-redskaber/det-velfaerdesteknologiske-landkort/#/</a>  ・ KL: KOMBITが紹介する評価関連資料 (Evalueringssrapporter) : <a href="https://videncenter.kl.dk/viden-og-vaerktoej/teknologilandskabet-overblik-og-redskaber/velfaerdesteknologi/materialer-og-vaerktoej/evalueringssrapporter/">https://videncenter.kl.dk/viden-og-vaerktoej/teknologilandskabet-overblik-og-redskaber/velfaerdesteknologi/materialer-og-vaerktoej/evalueringssrapporter/</a>
3	Copenhagen	<a href="https://csbb.kk.dk/">https://csbb.kk.dk/</a>	Per Sundall Pedersen, Projektleder, Teknologisk Team, Center For Selvstændig Bolig Og Beskæftigelse. Socialforvaltningen テクノロジーチーム (Teknologisk Team)は、2名で構成	TechMatch, VT-CV	評価軸は、5段階の星マークのみ	評価は、コペンハーゲン市のセンターが独自で開発した手法やツールを用いる。VTVは理解しているし重要な手法として認知しているが、理論や研究者が使うツールだと思う。実践者の自分たちにとって、自分たちの業務には適さないと考え、5年前に独自の手法を生み出し、毎日の業務で精錬させてきている。 評価の目的は、実際に自分たちの対応する市民たちに役立つもので、介護士たちの役に立つものであること(負担を軽減させること)。 開発したツール1: VTCV(Velfare Teknology: CV)は福祉機器の履歴書。 開発したツール2: チームCV:VTCVは市民一人一人のCVだが、チームのためのCVと位置付ける。介護士のチームが何が得意で何が不得意かを明示する。 開発したツール3: チーム契約書ROT RoTはエクセルで作られたチーム契約書であり、技術責任者が毎月の進捗報告するのだが、そのツールとして使われる。表紙には、担当市民、その市民にどのような技術を導入するかを記載していく。	
4	Vejle	<a href="https://www.vejle.dk/borger/mit-liv/">https://www.vejle.dk/borger/mit-liv/</a>	Gudny Vang (Specialkonsulent)  E: guvan@vejle.dk T: + 45 21 29 39 89	Strategi for VelfærdsteknologiPuljen 2021-2024 <a href="https://www.vejle.dk/om-kommunen/vejle-i-udvikling-undersider/strategi-for-velfaerdesteknologipuljen-2021-2024/">https://www.vejle.dk/om-kommunen/vejle-i-udvikling-undersider/strategi-for-velfaerdesteknologipuljen-2021-2024/</a>	評価目的は大きく分けて4つで、市民のQoL向上、職員の労働環境の工場、効率的なワークフロー、人口動態に対応したリソースの最適化。	2000万クローネを年間に配分。プロジェクトを3レベルに分類し、それぞれに期間・参加者などの要件を定める。評価目的は大きく分けて4つで、市民のQoL向上、職員の労働環境の工場、効率的なワークフロー、人口動態に対応したリソースの最適化。評価プロジェクトは、特定の課題に対応した技術のテスト、開発なども含む(単なる技術評価ではなく必要なものを導入するための不可欠なプロセス)。市の3部門(高齢者、障害者、社会弱者:精神病など)が合同でプロジェクトとして承認する。	最終的には、福祉機器担当の2名がほぼ決めていく。 ロボットなどの高性能技術が導入される可能性はかなり低い(スライドの例などを見ると明確)

【別添】表5：デンマークにおけるインクルージョンテクノロジーの評価手法

インクルージョンテクノロジーの活用を力を入れ、評価の手続きが明確になっている代表的な自治体やインクルージョンテクノロジーに関連した評価のガイドラインを作成している公的組織の取り組みを示す

No.	自治体名 (もしくは組織名)	URL	担当者	評価方法(戦略)	利用している評価指標	概要 活動内容と評価の方法	その他
5	Odense	Center for Welfare Technology <a href="https://www.odense.dk/cfv">https://www.odense.dk/cfv</a>  *Center for Welfare Technologyは、Odense市全体のウェルフェアテクノロジーに関わる共同作業を担当している	問合せ先 cfv@odense.dk	VTV (VelfærdsteknologiVurdering : ウェルフェアテクノロジー評価)	VTVは、デンマーク技術研究所 (Teknologisk Institut   Danish Technological Institute) が開発したVTVモデルは、「360度テクノロジーアセスメント」、「評価の文書化」、「効果実現のためのベンチマーク」、「意思決定支援の評価」を行う総合評価ツールである。 VTV評価により、医療・福祉分野の関連組織に、特定のウェルフェアテクノロジーをどのように統合し、課題解決ができるか、その可能性は何か、どこに導入できるかなどの検討を行うことができる。また、この評価において、身体・認知・行動的障害をもつ市民と彼らが使用するテクノロジーとの関係、相互作用、出会いに対する意識を今日活かし、実際に使用に対し、マッチングを考えることができる。 VTVは、4つのカテゴリ「技術 (teknologien)」、「市民 (beboeren)」、「スタッフと組織 (personale og organisation)」、「経済 (økonomi)」を検証する。各カテゴリはそれぞれ2つのエリアに細分化され、より詳細なパラメータが設定されている。必要に応じて、全てまたは一部のカテゴリ、エリア、パラメータを使用する。 データ収集や処理は定性的・定量的評価を行う。これには、市民、スタッフ、管理者へのインタビュー、観察調査、ログブック、アンケート、議事録、様々なシステムからのデータ収集、スタッフ・市民などのテクノロジーに対する評価等が含まれる。これら様々なデータを評価するため、VTVは上記カテゴリ、エリア、パラメータや指標のテンプレートを基盤とした360度評価を実施していると言える。 ( <a href="https://www.teknologisk.dk/_/media/66998_VTV%20af%20vasketoilet%20for%20Br%F8ndby%20Kommune%207%2016.pdf">https://www.teknologisk.dk/_/media/66998_VTV%20af%20vasketoilet%20for%20Br%F8ndby%20Kommune%207%2016.pdf</a> )	・Odense市の新規ウェルフェアテクノロジー導入における特徴は次の通り。 (参照： <a href="https://nordicwelfare.org/wp-content/uploads/2017/10/england_webb.pdf">https://nordicwelfare.org/wp-content/uploads/2017/10/england_webb.pdf</a> ) 戦略：Odense市のウェルフェアテクノロジー戦略は、「福祉社会の課題に対し、革新的なテクノロジー解決策により確実に対応していくこと」である。この戦略では、市民の日常生活・活動支援や、スタッフの労働環境の改善、市の成長政策の支援、現行もしくはそれ以下のコスト水準による自治体の福祉サービスの提供等が対象となっている。 コミュニケーションプラン：自治体内外の関係者とウェルフェアテクノロジーに関するビジョンや戦略を共有し、最適なテクノロジーを導入するため、プロジェクトベースのコミュニケーションプランを作成している。その活動の一環として、Odense市では、エンドユーザーを巻き込んだ福祉技術に関するショートフィルムの作成を行っている。 ニーズ解析：Odense市では、ウェルフェアテクノロジーに対する自治体とエンドユーザーのニーズを把握するニーズ解析を重視している。アンケートやワークショップ、報告書などの文書やテンプレートを形式化している。 市場導入調査：Odense市は、既存の市場または革新的な新製品を把握するための市場導入調査において、リビングラボやピッチなど異なる方法を用いて行っている。関連企業が自治体にアプローチするための方法も構築している。 ( <a href="http://www.odense.dk/cfv">www.odense.dk/cfv</a> ) 評価モデル：評価対象となるウェルフェアテクノロジーが自治体のニーズを満たしているのかを評価するための評価モデルとして、Odenseでは、VTVと別のビジネスケースモデルを使用しており、誰もが同じように評価できるようにしている (VTVについては左記参照)。 実装モデル：新たなテクノロジーを導入する際の実装のフレームワークとして、独自の「ウェルフェアテクノロジー実装モデル」を持つ。このモデルでは、評価ステップを3つ (インプット、評価 (The engine-room)、実装) に分け、いずれのステップにおいても、市民やユーザー、ネットワークが参加することを想定している。インプットは、企業からの情報、ニーズ解析、知識共有を示す。評価では、テクノロジー評価、ビジネスケース、技術交流が行われる。実装では、南東西の各エリアにおいて実装を行う。また、Odenseでは、リビングラボも開催している。  ・Odense市は、企業との対話 (dialog) において、企業側に下記の「事前準備」を求めている。 テクノロジーの目的、当該テクノロジーにより利益を得られるターゲットグループ、当該テクノロジーにより自治体が見られる直接的・間接的な利益、当該テクノロジーの成熟度 (コンセプト、未テストのプロトタイプ/実用化前にテストが必要な製品、開発済みかつ既にテストが完了した製品) また、可能であれば、他の自治体でのテスト結果の提示も求めている。 ( <a href="https://www.odense.dk/cfv/kontakt/dialog-med-virksomheder">https://www.odense.dk/cfv/kontakt/dialog-med-virksomheder</a> )	北欧理事会 (Nordic Council) の社会・健康セクターであるNordic Welfare Center (NVC : 北欧福祉センター) が2017年に発行したツールボックス「Welfare technology – tool box for implementation」( <a href="https://nordicwelfare.org/wp-content/uploads/2017/10/england_webb.pdf">https://nordicwelfare.org/wp-content/uploads/2017/10/england_webb.pdf</a> ) 内に、Odense市がベストプラクティスの一つとして紹介されている。 このツールボックスは、自治体がウェルフェアテクノロジーを導入する際の最適なプロセスを構築するために作成された。このプロセスは次の9項目に分けられている。 「①ビジョン (Vision)」、「②戦略 (Strategy)」、「③コミュニケーションプラン (Communication Plan)」、「④ニーズ分析 (Needs-Analysis)」、「⑤市場導入調査 (Market Screening)」、「⑥評価モデル (Evaluation Model)」、「⑦調達計画 (Procurement Plan)」、「⑧実装モデル (Implementation Model)」、「⑨効果モニタリング (Effect Monitoring)」  ・Odense Kommuneの関連ページ <a href="https://www.odense.dk/om-kommunen/forvaltninger/aeldre-og-handicapforvaltningen/organisering/politik-strategi-og-udvikling/center-for-velfaerdsteknologi">https://www.odense.dk/om-kommunen/forvaltninger/aeldre-og-handicapforvaltningen/organisering/politik-strategi-og-udvikling/center-for-velfaerdsteknologi</a>
6	Aalborg (University)	<a href="https://www.labwelfare.tech.com/en/">https://www.labwelfare.tech.com/en/</a>	Birthe Dinesen, Professor, PhD & Head of Laboratory for Welfare Technologies - Telehealth & Telerehabilitation,	MAST Methods (Telemedicineのための手法)	MAST Method (7項目)	次の7項目に対して、期待される効果を、CoParticipationのワークショップで洗い出していくという手法。1. Health problem + characteristics of the application, 2. Safety, 3. Clinical effectiveness, 4. Patient perspectives, 5. Economic aspects, 6. Organisational aspects, 7. Socio-cultural, ethical and legal aspects	

【別添】表5：デンマークにおけるインクルージョンテクノロジーの評価手法

インクルージョンテクノロジーの活用に力を入れ、評価の手続きが明確になっている代表的な自治体やインクルージョンテクノロジーに関連した評価のガイドラインを作成している公的組織の取り組みを示す

No.	自治体名 (もしくは組織名)	URL	担当者	評価方法(戦略)	利用している評価指標	概要 活動内容と評価の方法	その他
7	Aalborg Kommune	Center for Welfare Technology (CFV) <a href="https://www.cfv-nord.dk/">https://www.cfv-nord.dk/</a>	Sissie Skyum: Center for Welfare Technology	Presentation Day	参加型ワークショップ、 1. 新規、もしくは当該市において知られていない福祉機器製品である事。他の自治体でよく知られていたり導入されている製品などは除外する。 2. 製品発表会は、自治体職員にインスピレーションを与えるもの、最新の福祉機器に触れることができる機会と位置付けられる。公平に紹介するという類のものではない。 3. 福祉機器は下記の要項の一つ、もしくは複数満たしている必要がある。 - 市民に意味がある製品である事。市民が自律した生活を送り、誇りを保ち、QoLを高めることができること - 製品は、自治体職員に意味があるものであること。製品は、自治体職員の労働環境を向上させるもの、計画しやすくする必要があり、他のタスクにとりかかれるなどの時間の節約につながる - 製品は、自治体組織、予算、課題分野に意味があるものであること。現在の組織構造の中で利用できる必要があり、導入することで経済効果が狙えるものである必要がある。さらに、自治体の重点エリアに関わっている必要がある。 4. 発表会は、分野ごと・テーマごとに実施されるため待ち時間が起こりうる。例えば、訓練関連、アプリ関係、センサー、移譲、認知症などのテーマがありうる。	ステップ1：技術の選定 企業がCFVに技術持ち込みのコンタクトをしてくる。その際に、3項目(本人にとって何が重要なのか、介護士にとって何が役立つのか、自治体にとってどんな経済的メリットがあるか)を確認し、それが確認できない場合は、ステップ2のプレゼンテーションには進めない。 ステップ2：ワークショップ 事前準備：参加企業に事前にテンプレートを渡し、基本事項を埋めてもらう(評価指標)。参加者が理解できるように簡潔にまとめる必要があり、最大A4で2ページ以内にまとめ、事前に提出。また、自治体のクオリティコントロールに送り問題がないか確認することもある。提出された資料は、ワークショップ当日に参加者に配られる。 当日：ステップ1をクリアした3-4企業が集い各40分ほどのプレゼンテーションからなるワークショップセッションを実施する。このワークショップは、CFVが中心となり進められる。聴講・参加者は、自治体職員、看護師、医師、家族、当人など様々で、この段階で多様なステークホルダーを集めることが重要である。ワークショップセッションの参加者は、提出された資料を元に聴講し、各企業の評価を1枚の質問用紙にそれぞれの立場から記載する。質問用紙は、記者にとってシンプルでわかりやすいものである必要があるため、評価は5段階評価のみ、および自由回答。最後に、代表が集まって結果を議論し、1st stepとしてパイロットプロジェクトをしたいかどうか(もしくはテスト導入しないか)を考える。その後、どこでテストしたいかを考える。 ステップ3：地方自治体プロジェクトチームの参画 ステップ3から地方自治体のプロジェクトチームが関わる。テストサイト/試しに使ってみたいと考えるヘルスケア組織や機関があれば、企業と協力し、長期のパイロットプロジェクトを実施する。パイロットプロジェクトは、誰が使うか、何人に使ってもらうか、プロジェクト期間などの詳細を事前に定めて実施する。例えば、LAVOTは、3箇所(Aalborg, Viborg, Skive)で活用されることになった。 ステップ4：スケールアップの検討 成果にもよるが、一部の組織で実験的に導入されたテクノロジーを、いかにスケールアップするか広範囲で活用させる可能性を考える。	参加者が記入する非常にシンプルなテンプレートがある。評価指標に関しては、2007年のものが簡略化されたIntroduktion til mini-MTVであるが、こちらは医療機器の評価に使われているものだ。デンマークの医療関係分野では広く使われているが、福祉機器により合ったタイプの評価指標が作られるべきだと考えている。
8	Aabenraa Kommune	<a href="http://www.livingtechaabenraa.dk/nyheder/2019/go-to-guide-til-implementering-af-velfaerdsteknologier-til-mennesker-med-demens/">http://www.livingtechaabenraa.dk/nyheder/2019/go-to-guide-til-implementering-af-velfaerdsteknologier-til-mennesker-med-demens/</a>	Kirsten Springborg, Aabenraa Kommune and Project partner of Demantec	7ステップによる介護施設で暮らし認知症者の生活支援技術のテストと実装のためのガイドライン「Go-to-Guide」(Demantec)	Denmattecは、介護施設へのウェルフェア導入において、価値創造と早期のユーザ参加および、介護施設とテクノロジー提供企業の早期対話が施設へのテクノロジー導入において重要であるとしている。Denmattecによるガイドライン「Go-to-Guide」では、ユーザーのニーズを知るため、準備段階に重点を置き、企業や介護施設からのベストプラクティスによるアドバイスを提供している。 このガイドラインでは、導入手続きを7つのフェーズに分類しており、各フェーズの実施事項だけでなく、責任者、関係者についての推奨も行っている。 7つのフェーズ：①フレームワーク、②フィールドワーク、③ワークショップ、④パイロットテスト、⑤テスト評価、⑥実装、⑦最終評価  ・資料： <a href="https://syddansksundhedsinnovation.dk/media/g5tpkah3/demantec_go-to-guide-for-your-implementation-journey512-final-a.pdf">https://syddansksundhedsinnovation.dk/media/g5tpkah3/demantec_go-to-guide-for-your-implementation-journey512-final-a.pdf</a>	7つのフェーズにおける手続き ①フレームワーク：テクノロジー導入に向け、チームのゴールを設定する。介護施設のスタッフ、居住者にとってのテクノロジーの価値、また発展(growth)や経済(economy)的価値を設定する。 ②フィールドワーク：介護現場のニーズや課題を明確にするためのフィールドワークを実施する。 ③ワークショップ：特定されたニーズにより、フレームワークを見直す。対象となるニーズや課題に対し、どの技術提供者・開発者が最適なアプローチを提供できるか、企業と密接に連携し、導入計画を策定する。 ④パイロットテスト：介護施設内で、様々なソリューションを検証する(例：プランニングとテストの繰り返し、小規模な検証、ソリューションを使った最初のスタッフトレーニングの実施、環境による相互作用や実際の効果の観察)。この際、必ずスタッフが参加し、企業は彼らからのフィードバックを集計し、計画を立て、可能であれば、技術調整と新たなワークフローをテストする。 ⑤テスト評価：全体のフレームワークを参照し、ニーズに合ったテクノロジーがあれば、反映させる。企業と介護施設は更なる協力のための計画を策定する。 ⑥実装：実施計画に従い、ソリューションもしくはアプリケーションの設置を設置する。スタッフやユーザーへの紹介とトレーニングを行う。 ⑦最終評価：全体的なフレームワークを参照し、フォローアップと調整を行う。継続的なサポートとトレーニングを行う。具体的なアプリケーションとそれに対応する価格リストについて、拡張とスケールアップの両方について議論する。事前に合意したフォローアップサービスやサポートを実施する。	・南デンマークヘルスイノベーションセンター(Syddansk Sundhedsinnovation)は、介護施設向けウェルフェアテクノロジーのプロジェクトDemantecのメンバーであり、このプロジェクトにおいて作成した「介護施設で暮らし認知症の方の生活支援技術の試験・実装のための7ステップ」によるテクノロジー導入を推奨している。 ( <a href="https://syddansksundhedsinnovation.dk/projekter/demantec-demens-og-innovative-velfaerdsteknologiske-losninger-til-plejehjem">https://syddansksundhedsinnovation.dk/projekter/demantec-demens-og-innovative-velfaerdsteknologiske-losninger-til-plejehjem</a> )